



【編集・発行/札幌くらぶ】 064-0931 札幌市中央区中島公園1-15 札幌交響楽団事務局気付
 メール: information@sakkyoclub.net
 ホームページ: http://sakkyoclub.net/sakkyoclub/

2016.4

74



平成28年度 札幌くらぶ総会・交流会開催のご案内

総 会

平成28年度札幌くらぶ総会を次のとおり開催しますので、ご案内いたします。

日時:平成28年5月14日(土)
 10:30~12:30

会場:札幌コンサートホール
 2階大会議室

総会式次第

- 開会あいさつ
- 来賓あいさつ
- 議長選出
- 議案第1号 平成27年度活動報告
- 議案第2号 平成27年度会計報告及び会計監査報告
- 議案第3号 平成28年度活動計画
- 議案第4号 平成28年度会計予算
- 議案第5号 役員改選
- 閉会あいさつ

第589回札幌定期演奏会

閉会后、各自昼食のうえ、午後2時からの第589回札幌定期演奏会をお楽しみください。

総会出席者で定期演奏会を聴くことを希望される方でチケットをお持ちでない方は、チケットをサービスいたしますので、090-4878-4390(武藤)まで、5月10日(火)までにお申し出ください。先着順でチケットがなくなり次第締め切らせていただきます。

交 流 会

定期演奏会終了後、次のとおり交流会を開催します。

日時:平成28年5月14日(土)
 16:30~18:30

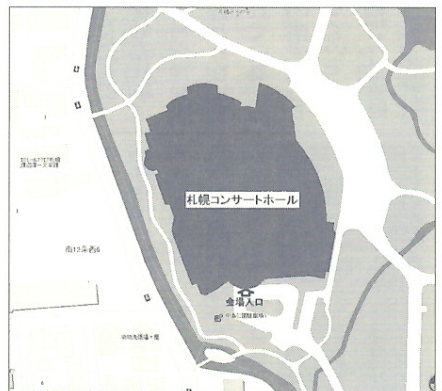
会場:テラスレストラン・キタラ
 会費:3500円

総会出席、交流会参加申込

同封のハガキ(切手不要)にて5月10日(火)までにお申し込みください。

なお、総会に出席されない場合は、ハガキの委任状欄にご記入のうえ5月10日(火)までにお送りください。

(事務局長 武藤義典)



札幌くらぶ総会会場「札幌コンサートホール」

た。これまで定期演奏会(1月22日、23日)のプログラムに楽譜名とそれを使用した演奏会名の一覧が掲載され、定期会員はじめ来場した方々に紹介されました。

平成27年度は、年会費から15万1000円、追加寄付が31万4700円、計46万5700円で50万円には届きませんでした。このままでは、これまでの繰越から充当し50万円を寄付し、平成27年12月12日に開催した札幌くらぶのXmasパーティーにおいて、上田会長から永井礼響専務理事への目録の贈呈式を行いました。

平成18年に始まった楽譜支援金事業は、平成27年で10年が経過しました。事業の原資は、年会費の500円と会員からの追加寄付金をもって年50万円を寄贈し、楽譜購入の一部に充ててもらっています。10年間で総額500万円を寄贈しました。

平成27年度 札幌くらぶ楽譜支援金 購入内訳

作曲者	曲名	金額	消費税	計	備考
ドビュッシー	海	81,875	6,550	88,425	2015 9 名曲
ドビュッシー	牧神の午後への前奏曲	17,815	1,425	19,240	2015 9 名曲
チャイコフスキー	眠りの森の美女組曲	41,565	3,325	44,890	2015 10 名曲
ベートーヴェン	交響曲第9番	60,480	4,838	65,318	2015 12 第九
エルガー	序曲コケイン	31,870	2,550	34,420	2016 4 名曲
エルガー	威風堂々第4番	18,750	1,500	20,250	2016 4 名曲
シューマン	ピアノ協奏曲	41,420	3,314	44,734	2016 9 名曲
ブラームス	ハイドンの主題による変奏曲	32,850	2,628	35,478	2016 9 名曲
レーガー	モーツァルトの主題による変奏曲とフーガ	49,405	3,952	53,357	2016 9 583定期
レーガー	序奏とパッサカリア	1,230	98	1,328	2016 9 583定期
ドヴォルジャーク	アメリカ組曲	40,105	3,208	43,313	2016 10 名曲
バッハ	管弦楽組曲第1番	27,515	2,201	29,716	2017 1 596定期
バッハ	管弦楽組曲第2番	26,425	2,114	28,539	2017 1 596定期
バッハ	管弦楽組曲第4番	32,630	2,610	35,240	2017 1 596定期
		503,935	40,315	544,250	

Librarian 中村大志

10年が経過した楽譜支援金事業

奏会のプログラムでは寄付のページに金額が掲載されていましたが、購入した楽譜名と使用演奏会名が紹介されることは初めてのことで、札幌くらぶ会員、スタッフ一同大変感激いたしました。平成27年度楽譜支援金による購入した楽譜の内訳は、札幌から「平成27年度札幌くらぶ楽譜支援金購入内訳」とおり報告をいただきました。(事務局長 武藤義典)

演奏会を楽しく聴くために

八木 幸 二 (札幌くらぶ会員)

第589回定期演奏会

5月13日(金) 19:00

5月14日(土) 14:00

札幌コンサートホール大ホール

指揮/マックス・ボンマー

(首席指揮者)

ソプラノ/市原 愛

女声合唱/札幌合唱団(女声)



マックス・ボンマー ©藤井 泰生



市原 愛 ©武藤 章

■ドビュッシー

／牧神の午後への前奏曲

フルートの耽美で夢幻的な旋律が現れたとたん、この世ではないまったく別の世界が広がっていく。そんな魅惑的なこの曲はドビュッシーが30歳を過ぎた頃に書かれた作品。

ホルンを10本近く使用しているのに対し、4番は4本で3管編成に近い小ぶりの管弦楽編成となっている。このように外見的には軽量な

だが、他の2作品同様、楽章の中に声楽が含まれ、それが重要な役割を担ってマラーの音楽的特徴を際立たせている。当初、第3番の第7楽章として、ソプラノが「子どもの魔法の角笛」の天国の喜びを歌う部分が、後に第4番の4楽章となった。

マラーの交響曲は、宗教的な思想、あるいは人間の生き方についての真摯な考えが反映している。それは、1889年に両親やすぐ下の妹を病気で一度に失い、人間とは何なのか、生きることは何かを自問したからなのであろう。交響曲第2番は、ちょうどその頃に書かれ、さらに第3番と第4番の間で、彼はユダヤ教徒からカトリックに改宗している。この影響は、3つの交響曲の縦糸となる「子どもの魔法の角笛」と密接に関係していると思われる。

第1楽章の冒頭からフルートと鈴による小気味よい8分音符と作品全体を網羅する付点8分音符と16分音符の軽快なリズムによる順次進行の旋律は、まさに爽やかな牧歌的雰囲気を持つこの作品の象徴と言えよう。第2楽章は、作曲家の遊び心溢れる旋律の連なりが実におもしろくつづらられる。長2度高く調弦された独奏ヴァイオリンの「死の舞踏」は、レント風の不気味な調性というより、映画「ハリ

ポッター」のようなユーモラスでどこか憎めない楽想を醸し出す。この作品の中核をなす第3楽章は、「平安にみちて」と記されているように実に美しい主題が弦楽部を中心に奏でられ心が和む。長大な変奏曲となっているが、各部分は個性的で第1変奏は、速度を増してクラリネット、チゴが対位的に旋律を紡がせながら会話をはずませる。第2変奏は、嬰ハ短調のアンダンテでチェロを主体とした叙情的な旋律が、物憂げに奏でられるが、突然アレグレットとなり陽気な雰囲気となる。第3変奏は広がりのある弦楽の響きの中で、ヴァイオラが、実にロマンティックな旋律を奏でる。第4変奏は、ティンパニーやホルンが莊嚴に鳴り響き4楽章を暗示させながら静謐に終結し4楽章へと進む。

奏曲の歴史上ベスト5に入ろうかという大傑作である。優れた交響曲や交響詩を書いたシベリウスはこの曲においても従来の協奏曲とは比較にならないほど交響的色彩の強いものを書いたことは当然だが、独奏楽器の特性を十分に発揮させ、シベリウス以外の何者でもない独創性溢れる作品に仕上げている。特に第1楽章では、ソナタ形式の枠を超え、カデンツァを中央においた独特の構成で情緒の底深さを幽玄に表現している。この曲は叙情的な旋律とラプソディーな曲想で、女性ヴァイオリニストに人気があるのか、筆者も加藤知子、竹澤恭子、そして神尾真由子などの演奏を聴いてきたが、今回は、ロシアの巨匠ボリス・ベルキンと長年の盟友広上淳一との渾身のあ

る熱い競演が大いに楽しんだ。

味な調性というより、映画「ハリポッター」のようなユーモラスでどこか憎めない楽想を醸し出す。この作品の中核をなす第3楽章は、「平安にみちて」と記されているように実に美しい主題が弦楽部を中心に奏でられ心が和む。長大な変奏曲となっているが、各部分は個性的で第1変奏は、速度を増してクラリネット、チゴが対位的に旋律を紡がせながら会話をはずませる。第2変奏は、嬰ハ短調のアンダンテでチェロを主体とした叙情的な旋律が、物憂げに奏でられるが、突然アレグレットとなり陽気な雰囲気となる。第3変奏は広がりのある弦楽の響きの中で、ヴァイオラが、実にロマンティックな旋律を奏でる。第4変奏は、ティンパニーやホルンが莊嚴に鳴り響き4楽章を暗示させながら静謐に終結し4楽章へと進む。

味な調性というより、映画「ハリポッター」のようなユーモラスでどこか憎めない楽想を醸し出す。この作品の中核をなす第3楽章は、「平安にみちて」と記されているように実に美しい主題が弦楽部を中心に奏でられ心が和む。長大な変奏曲となっているが、各部分は個性的で第1変奏は、速度を増してクラリネット、チゴが対位的に旋律を紡がせながら会話をはずませる。第2変奏は、嬰ハ短調のアンダンテでチェロを主体とした叙情的な旋律が、物憂げに奏でられるが、突然アレグレットとなり陽気な雰囲気となる。第3変奏は広がりのある弦楽の響きの中で、ヴァイオラが、実にロマンティックな旋律を奏でる。第4変奏は、ティンパニーやホルンが莊嚴に鳴り響き4楽章を暗示させながら静謐に終結し4楽章へと進む。

味な調性というより、映画「ハリポッター」のようなユーモラスでどこか憎めない楽想を醸し出す。この作品の中核をなす第3楽章は、「平安にみちて」と記されているように実に美しい主題が弦楽部を中心に奏でられ心が和む。長大な変奏曲となっているが、各部分は個性的で第1変奏は、速度を増してクラリネット、チゴが対位的に旋律を紡がせながら会話をはずませる。第2変奏は、嬰ハ短調のアンダンテでチェロを主体とした叙情的な旋律が、物憂げに奏でられるが、突然アレグレットとなり陽気な雰囲気となる。第3変奏は広がりのある弦楽の響きの中で、ヴァイオラが、実にロマンティックな旋律を奏でる。第4変奏は、ティンパニーやホルンが莊嚴に鳴り響き4楽章を暗示させながら静謐に終結し4楽章へと進む。

味な調性というより、映画「ハリポッター」のようなユーモラスでどこか憎めない楽想を醸し出す。この作品の中核をなす第3楽章は、「平安にみちて」と記されているように実に美しい主題が弦楽部を中心に奏でられ心が和む。長大な変奏曲となっているが、各部分は個性的で第1変奏は、速度を増してクラリネット、チゴが対位的に旋律を紡がせながら会話をはずませる。第2変奏は、嬰ハ短調のアンダンテでチェロを主体とした叙情的な旋律が、物憂げに奏でられるが、突然アレグレットとなり陽気な雰囲気となる。第3変奏は広がりのある弦楽の響きの中で、ヴァイオラが、実にロマンティックな旋律を奏でる。第4変奏は、ティンパニーやホルンが莊嚴に鳴り響き4楽章を暗示させながら静謐に終結し4楽章へと進む。

味な調性というより、映画「ハリポッター」のようなユーモラスでどこか憎めない楽想を醸し出す。この作品の中核をなす第3楽章は、「平安にみちて」と記されているように実に美しい主題が弦楽部を中心に奏でられ心が和む。長大な変奏曲となっているが、各部分は個性的で第1変奏は、速度を増してクラリネット、チゴが対位的に旋律を紡がせながら会話をはずませる。第2変奏は、嬰ハ短調のアンダンテでチェロを主体とした叙情的な旋律が、物憂げに奏でられるが、突然アレグレットとなり陽気な雰囲気となる。第3変奏は広がりのある弦楽の響きの中で、ヴァイオラが、実にロマンティックな旋律を奏でる。第4変奏は、ティンパニーやホルンが莊嚴に鳴り響き4楽章を暗示させながら静謐に終結し4楽章へと進む。

味な調性というより、映画「ハリポッター」のようなユーモラスでどこか憎めない楽想を醸し出す。この作品の中核をなす第3楽章は、「平安にみちて」と記されているように実に美しい主題が弦楽部を中心に奏でられ心が和む。長大な変奏曲となっているが、各部分は個性的で第1変奏は、速度を増してクラリネット、チゴが対位的に旋律を紡がせながら会話をはずませる。第2変奏は、嬰ハ短調のアンダンテでチェロを主体とした叙情的な旋律が、物憂げに奏でられるが、突然アレグレットとなり陽気な雰囲気となる。第3変奏は広がりのある弦楽の響きの中で、ヴァイオラが、実にロマンティックな旋律を奏でる。第4変奏は、ティンパニーやホルンが莊嚴に鳴り響き4楽章を暗示させながら静謐に終結し4楽章へと進む。

味な調性というより、映画「ハリポッター」のようなユーモラスでどこか憎めない楽想を醸し出す。この作品の中核をなす第3楽章は、「平安にみちて」と記されているように実に美しい主題が弦楽部を中心に奏でられ心が和む。長大な変奏曲となっているが、各部分は個性的で第1変奏は、速度を増してクラリネット、チゴが対位的に旋律を紡がせながら会話をはずませる。第2変奏は、嬰ハ短調のアンダンテでチェロを主体とした叙情的な旋律が、物憂げに奏でられるが、突然アレグレットとなり陽気な雰囲気となる。第3変奏は広がりのある弦楽の響きの中で、ヴァイオラが、実にロマンティックな旋律を奏でる。第4変奏は、ティンパニーやホルンが莊嚴に鳴り響き4楽章を暗示させながら静謐に終結し4楽章へと進む。

味な調性というより、映画「ハリポッター」のようなユーモラスでどこか憎めない楽想を醸し出す。この作品の中核をなす第3楽章は、「平安にみちて」と記されているように実に美しい主題が弦楽部を中心に奏でられ心が和む。長大な変奏曲となっているが、各部分は個性的で第1変奏は、速度を増してクラリネット、チゴが対位的に旋律を紡がせながら会話をはずませる。第2変奏は、嬰ハ短調のアンダンテでチェロを主体とした叙情的な旋律が、物憂げに奏でられるが、突然アレグレットとなり陽気な雰囲気となる。第3変奏は広がりのある弦楽の響きの中で、ヴァイオラが、実にロマンティックな旋律を奏でる。第4変奏は、ティンパニーやホルンが莊嚴に鳴り響き4楽章を暗示させながら静謐に終結し4楽章へと進む。

味な調性というより、映画「ハリポッター」のようなユーモラスでどこか憎めない楽想を醸し出す。この作品の中核をなす第3楽章は、「平安にみちて」と記されているように実に美しい主題が弦楽部を中心に奏でられ心が和む。長大な変奏曲となっているが、各部分は個性的で第1変奏は、速度を増してクラリネット、チゴが対位的に旋律を紡がせながら会話をはずませる。第2変奏は、嬰ハ短調のアンダンテでチェロを主体とした叙情的な旋律が、物憂げに奏でられるが、突然アレグレットとなり陽気な雰囲気となる。第3変奏は広がりのある弦楽の響きの中で、ヴァイオラが、実にロマンティックな旋律を奏でる。第4変奏は、ティンパニーやホルンが莊嚴に鳴り響き4楽章を暗示させながら静謐に終結し4楽章へと進む。

味な調性というより、映画「ハリポッター」のようなユーモラスでどこか憎めない楽想を醸し出す。この作品の中核をなす第3楽章は、「平安にみちて」と記されているように実に美しい主題が弦楽部を中心に奏でられ心が和む。長大な変奏曲となっているが、各部分は個性的で第1変奏は、速度を増してクラリネット、チゴが対位的に旋律を紡がせながら会話をはずませる。第2変奏は、嬰ハ短調のアンダンテでチェロを主体とした叙情的な旋律が、物憂げに奏でられるが、突然アレグレットとなり陽気な雰囲気となる。第3変奏は広がりのある弦楽の響きの中で、ヴァイオラが、実にロマンティックな旋律を奏でる。第4変奏は、ティンパニーやホルンが莊嚴に鳴り響き4楽章を暗示させながら静謐に終結し4楽章へと進む。

味な調性というより、映画「ハリポッター」のようなユーモラスでどこか憎めない楽想を醸し出す。この作品の中核をなす第3楽章は、「平安にみちて」と記されているように実に美しい主題が弦楽部を中心に奏でられ心が和む。長大な変奏曲となっているが、各部分は個性的で第1変奏は、速度を増してクラリネット、チゴが対位的に旋律を紡がせながら会話をはずませる。第2変奏は、嬰ハ短調のアンダンテでチェロを主体とした叙情的な旋律が、物憂げに奏でられるが、突然アレグレットとなり陽気な雰囲気となる。第3変奏は広がりのある弦楽の響きの中で、ヴァイオラが、実にロマンティックな旋律を奏でる。第4変奏は、ティンパニーやホルンが莊嚴に鳴り響き4楽章を暗示させながら静謐に終結し4楽章へと進む。

味な調性というより、映画「ハリポッター」のようなユーモラスでどこか憎めない楽想を醸し出す。この作品の中核をなす第3楽章は、「平安にみちて」と記されているように実に美しい主題が弦楽部を中心に奏でられ心が和む。長大な変奏曲となっているが、各部分は個性的で第1変奏は、速度を増してクラリネット、チゴが対位的に旋律を紡がせながら会話をはずませる。第2変奏は、嬰ハ短調のアンダンテでチェロを主体とした叙情的な旋律が、物憂げに奏でられるが、突然アレグレットとなり陽気な雰囲気となる。第3変奏は広がりのある弦楽の響きの中で、ヴァイオラが、実にロマンティックな旋律を奏でる。第4変奏は、ティンパニーやホルンが莊嚴に鳴り響き4楽章を暗示させながら静謐に終結し4楽章へと進む。

味な調性というより、映画「ハリポッター」のようなユーモラスでどこか憎めない楽想を醸し出す。この作品の中核をなす第3楽章は、「平安にみちて」と記されているように実に美しい主題が弦楽部を中心に奏でられ心が和む。長大な変奏曲となっているが、各部分は個性的で第1変奏は、速度を増してクラリネット、チゴが対位的に旋律を紡がせながら会話をはずませる。第2変奏は、嬰ハ短調のアンダンテでチェロを主体とした叙情的な旋律が、物憂げに奏でられるが、突然アレグレットとなり陽気な雰囲気となる。第3変奏は広がりのある弦楽の響きの中で、ヴァイオラが、実にロマンティックな旋律を奏でる。第4変奏は、ティンパニーやホルンが莊嚴に鳴り響き4楽章を暗示させながら静謐に終結し4楽章へと進む。

味な調性というより、映画「ハリポッター」のようなユーモラスでどこか憎めない楽想を醸し出す。この作品の中核をなす第3楽章は、「平安にみちて」と記されているように実に美しい主題が弦楽部を中心に奏でられ心が和む。長大な変奏曲となっているが、各部分は個性的で第1変奏は、速度を増してクラリネット、チゴが対位的に旋律を紡がせながら会話をはずませる。第2変奏は、嬰ハ短調のアンダンテでチェロを主体とした叙情的な旋律が、物憂げに奏でられるが、突然アレグレットとなり陽気な雰囲気となる。第3変奏は広がりのある弦楽の響きの中で、ヴァイオラが、実にロマンティックな旋律を奏でる。第4変奏は、ティンパニーやホルンが莊嚴に鳴り響き4楽章を暗示させながら静謐に終結し4楽章へと進む。

味な調性というより、映画「ハリポッター」のようなユーモラスでどこか憎めない楽想を醸し出す。この作品の中核をなす第3楽章は、「平安にみちて」と記されているように実に美しい主題が弦楽部を中心に奏でられ心が和む。長大な変奏曲となっているが、各部分は個性的で第1変奏は、速度を増してクラリネット、チゴが対位的に旋律を紡がせながら会話をはずませる。第2変奏は、嬰ハ短調のアンダンテでチェロを主体とした叙情的な旋律が、物憂げに奏でられるが、突然アレグレットとなり陽気な雰囲気となる。第3変奏は広がりのある弦楽の響きの中で、ヴァイオラが、実にロマンティックな旋律を奏でる。第4変奏は、ティンパニーやホルンが莊嚴に鳴り響き4楽章を暗示させながら静謐に終結し4楽章へと進む。

味な調性というより、映画「ハリポッター」のようなユーモラスでどこか憎めない楽想を醸し出す。この作品の中核をなす第3楽章は、「平安にみちて」と記されているように実に美しい主題が弦楽部を中心に奏でられ心が和む。長大な変奏曲となっているが、各部分は個性的で第1変奏は、速度を増してクラリネット、チゴが対位的に旋律を紡がせながら会話をはずませる。第2変奏は、嬰ハ短調のアンダンテでチェロを主体とした叙情的な旋律が、物憂げに奏でられるが、突然アレグレットとなり陽気な雰囲気となる。第3変奏は広がりのある弦楽の響きの中で、ヴァイオラが、実にロマンティックな旋律を奏でる。第4変奏は、ティンパニーやホルンが莊嚴に鳴り響き4楽章を暗示させながら静謐に終結し4楽章へと進む。

味な調性というより、映画「ハリポッター」のようなユーモラスでどこか憎めない楽想を醸し出す。この作品の中核をなす第3楽章は、「平安にみちて」と記されているように実に美しい主題が弦楽部を中心に奏でられ心が和む。長大な変奏曲となっているが、各部分は個性的で第1変奏は、速度を増してクラリネット、チゴが対位的に旋律を紡がせながら会話をはずませる。第2変奏は、嬰ハ短調のアンダンテでチェロを主体とした叙情的な旋律が、物憂げに奏でられるが、突然アレグレットとなり陽気な雰囲気となる。第3変奏は広がりのある弦楽の響きの中で、ヴァイオラが、実にロマンティックな旋律を奏でる。第4変奏は、ティンパニーやホルンが莊嚴に鳴り響き4楽章を暗示させながら静謐に終結し4楽章へと進む。



広上 淳一



ボリス・ベルキン

第590回定期演奏会

6月10日(金) 19:00

6月11日(土) 14:00

札幌コンサートホール大ホール

指揮/広上 淳一

ヴァイオリン/ボリス・ベルキン

■シベリウス

／ヴァイオリン協奏曲 Op.47

若き日にヴァイオリニストを夢見ていたシベリウスは、この楽器の扱いにも大変長けていた。彼の唯一のヴァイオリン協奏曲は、ヴァイオリン協

奏曲の歴史上ベスト5に入ろうかという大傑作である。優れた交響曲や交響詩を書いたシベリウスはこの曲においても従来の協奏曲とは比較にならないほど交響的色彩の強いものを書いたことは当然だが、独奏楽器の特性を十分に発揮させ、シベリウス以外の何者でもない独創性溢れる作品に仕上げている。特に第1楽章では、ソナタ形式の枠を超え、カデンツァを中央においた独特の構成で情緒の底深さを幽玄に表現している。この曲は叙情的な旋律とラプソディーな曲想で、女性ヴァイオリニストに人気があるのか、筆者も加藤知子、竹澤恭子、そして神尾真由子などの演奏を聴いてきたが、今回は、ロシアの巨匠ボリス・ベルキンと長年の盟友広上淳一との渾身のあ

■ ショスタコーヴィチ

／交響曲第8番 op.65

第2世界大戦中、ショスタコーヴィチは1942年に交響曲第7番「レニングラード」と1943年にこの交響曲第8番を作曲している。第7番はドイツ軍包囲下のレニングラードで完成し、発表当時ソ連国内はもとよりドイツと戦っていた国々で熱狂的な歓迎を受けたが、第8番は、それほど有名ではなく演奏される機会も少ない。しかし、この曲に内包する大戦への悲惨な状況や社会主義体制の危機と勝利の雰囲気如実に描いている面、さらに音楽的にも伝統的、古典的な形式感から離れ、全楽章にわたり動機連続性を持たせながら自由な幻想曲的作風を見せている面など、第7番に劣らない優れた作品となっている。悲劇的性格が強く感じられるのは、大局的にハ短調で開始し、ハ長調で閉じられるというベートーヴェン風の「暗から明へ」の推移が示しているのだが、重苦しい気分が支配する長大な第1楽章の後、大戦の転機となったスターリングラード攻防戦勝利が第2楽章からの楽観的な楽想を醸し出している。作曲者は「私の思想と経験、それに赤軍の勝利にかかわる喜ばしいニュースが影響していないはずがない私の概して好ましい創作状態とが反映している。この新作は、未来を、戦後の時代をうかがう一

種の試みである。」と述べている。初演は、作曲された年の9月に芸術問題委員会に紹介された上で11月、モスクワ音楽院大ホールでムラヴィンスキーが指揮するソ連国立交響楽団によっておこなわれ、その翌年にはニューヨーク、ボストン、メキシコのチャヴェスさらにはロンドンで演奏されている。

森の響フレンドコンサート

札幌名曲シリーズ

「ウィーン」

華麗なるヴァイオリンと運命

6月18日(土) 14:00

札幌コンサートホール大ホール
独奏とコンサートマスター／
フォルクハルト・シュトイデ



フォルクハルト・シュトイデ

モーツァルト／アイネ・クライネ・ナハトムジーク K.525

この曲の旋律は、誰もが一度は耳にしていることだろう。モーツァルトの代名詞のようなこのセレナーダの表題「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」は、「小夜

曲」、つまり「小セレナーダ」と同じ意味のドイツ語である。楽章構成は、交響曲的な4楽章構成だが、作曲時にはもう一つメヌエットとトリオをおいた5楽章構成だったと思われる。当時は、社交の場でのBGM的な扱いである機会音楽として演奏されたようだ。この美しく明朗な曲調が、社交の場を一層盛り上げたに違いない。

モーツァルト

ヴァイオリン協奏曲第3番 K.216

モーツァルトはピアノの名手であったが、ヴァイオリンもかなりの腕前だった。天才は何でも出来てしまうのだな。もともと父レオポルドは、優れたヴァイオリニストでヴァイオリン奏法の名著を出版しており、そんな父に習ったモーツァルトなら当然のことかもしれない。

モーツァルトの協奏曲は、かつて第6番、第7番となっていたものが偽作と判定され、第1番から第5番までの5曲である。第3番は、フランス的な色彩が強く、それまでの協奏曲とは作風が大きく変化し、独奏楽器とオケとの対話や管楽器の用い方が充実している。モーツァルトは父に宛てた手紙の中で、夕食後に自分が演奏したこの曲に対し、「皆が美しく透明な音色だと賞賛した。」と書いている。

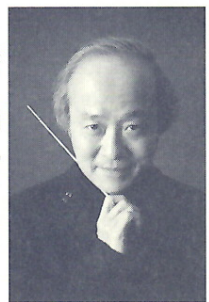
ベートーヴェン

／交響曲第5番「運命」 op.67

誰もが知っている「ジャジャ・ジャジャーン」は、音楽用語でリズム動機(曲構成の最小独立単位)と呼ばれている。このたった4つの音から「勇壮な運命の動機が全体を支配し、緊密で有機的に構成されている」交響曲第5番がくられた。ベートーヴェン自身が、この動機を「このように運命が戸をたたく」と語ったことから日本では「運命」の名で親しまれている。ただ、この2小節の「ジャジャ・ジャジャーン」を動機

または主題とするか、最初の5小節を主題とするか、はたまた最初の5小節は序奏とするか意見が、まだに分かれていた。そして、その解釈によって演奏もまったく違ってくる。たった2小節、4つしかない音なのに指揮者によって別物になってしまうような作品は他にあるだろうか。メンデルズゾーンがゲートの前で「運命」をピアノで弾いたとき、ゲートは「人を驚かさずだけで、感動させるというものが、母親がピアノの尾高節子、母方の従姉がチェリストの倉田澄子と、音楽的環境は十分に揃っていたのだろう。惇忠の代表作としては、「オーケストラのためのイマジユ」や「交響曲(時の彼方へ)」があり、両作品は尾高賞を受賞している。今回演奏される最新作をピアノの清水和音と指揮の尾高忠明が、どのように紡いでくれるのか期待がふくらむ。

ピアノ／清水 和音



尾高 忠明 ©Martin Richardson



清水 和音 ©Masa Yuki

尾高惇忠／ピアノ協奏曲

札幌名誉音楽監督尾高忠明と実兄、尾高惇忠は「尾高賞」創設のきっかけとなった尾高高忠を父に持つ。高忠は早世したために二人の音楽家兄弟に父親から、どれほどの影響を与えられたかはわからないが、母親がピアノの尾高節子、母方の従姉がチェリストの倉田澄子と、音楽的環境は十分に揃っていたのだろう。惇忠の代表作としては、「オーケストラのためのイマジユ」や「交響曲(時の彼方へ)」があり、両作品は尾高賞を受賞している。今回演奏される最新作をピアノの清水和音と指揮の尾高忠明が、どのように紡いでくれるのか期待がふくらむ。

シューベルト

／交響曲第8番「ザ・グレイト」

この交響曲は、シューベルトの亡くなる年に書かれたと長年思われていたが、自筆譜表紙の読み間違えであることが検証されたのが、わずか30年ほど前のことである。当時、シューベルトは歌曲の作曲家として名を知られていたが、交響曲や室内楽曲の作曲家としては、ほとんど知られていなかった。そのため「未完成交響曲」も含め、演奏されず埋もれてしまった作品が多い。この曲も作曲者は音として聞いていなかった。

シューベルトの死後、彼の墓参りに訪れたシューマンが、遺品から偶然この曲のスコアを発見し、メンデルズゾーンによって初演された。ベートーヴェンの第9交響曲に憧れを抱いて作曲されたというこの曲をシューマンは、「至るところに深い意義があり、一音一音が鋭利を極めた表現を持ち、深いロマン性がまじらされている。」と評したように、まさに「グレイト」な交響曲なのだ。第1楽章は、冒頭2本のホルンがシンブルな序奏主題を吹奏し、この主題が多彩な楽器で扱われ昂揚しながら主部へ進む。緩徐楽章は、付点リズムを持つ愛嬌のある旋律と下降する穏和な旋律が交差し、続くスケルツォ楽章は中間部で郷愁を誘うレントラー舞曲風の旋律が表れる。そしてソナタ形式の長大な終楽章でこの曲は閉じられる。

(写真協力／札幌交響楽団)

オケを包み込んでいく音を



プロフィール

大阪府出身。国際基督大学 (ICU) に入学後、渡米。ニューイングランド音楽院卒業、ボストン大学大学院修了。アジアユース・オーケストラ、タンゲルウッド音楽祭、PMF 等国内外の様々な音楽祭に参加。2009年イタリア PASIC 主催国際打楽器コンクール・ティンパニ部門第1位受賞。2011年3月札幌入団、2015年4月より副首席奏者。これまでにティモシー・ジェニス、フランク・エプスタイン、小森邦彦、松倉利之の各氏に師事。

♪ 楽員さんに
興味津津！ ⑨ ♪

♪ 打楽器副首席奏者 大家和樹さんに聞く ♪

1月22日金曜日、定期演奏会のゲネプロを直前にした貴重な時間に、大家さんにお話をうかがいました。奥様の香野 (くつの) 勢津子さんはマリンバ奏者で、この日も札幌の客演奏者として、トライアングルやグロッケンを担当していらっしゃいました。

♪ ドラムにはまってしまった日

生まれは鎌倉なんですが、記憶は全くありません。その後、親の転勤で広島に移り、5歳から高校卒業までは大阪でした。自分でも出身はどこなんだらうという感じですが、一番長かった大阪を出身地にしてあるんです。

小学校は地元元の学校だったのですが、6年生の時に転校して、その地域の中学校が荒れ

ていましたので、中学受験をすることにしました。国立大学附属の中高一貫校です。

音楽は小学校3・4年生の時にピアノをちょっと習っていましたが、それが、小学校6年生の時に、音楽の授業で立候補者数人の中から選ばれて、ドラムをたく機会があったんです。兄がロックのドラムをやっている、家にドラムセットもあったので、兄が留守の時な

どにたいたりしていました。部屋は防音などしてなくて、ご近所さんは迷惑だったでしょうね。中学校での部活は柔道部でしたが、ヤマハのドラム教室にも通っていました。高校に入ってから、音楽をやるかと決めて、柔道はや

♪ 生物の研究者か音楽家か!?

大学は三つ受けました。東京芸大、国際基督教大学とアメリカのニューイングランド音楽院です。芸大はダメだったので、国際基督

めてしまいました。高校1年生の文化祭でポップスとかロックのバンド演奏をしたのですが、これが気持ちよくて、はまってしまったんです。将来何をしたらいいのかわかっていませんが、これがきっかけになってドラムというか、打楽器を職業にしよう、本格的にやってみようと思いました。

それでクラシックの先生について、基礎から習い始めました。独学でやってドラマーになるのでは違うと思ったんですね。そこからは音大受験を意識して練習していました。

♪ 音楽祭が大好きです

スカッションもさせられました。転科も自由で、文系から理系に移ることもできました。このまま ICU に在籍して、生物系に進もうかなとも思いましたが、その後まもなくニューイングランド音楽院から合格通知が来ました。いろいろ迷いましたが、やっぱり一番やりたいことは音楽だ!と思ったので、それに挑戦することにしました。結局、ICUは4ヶ月でやめてアメリカに行くことに決めました。

その学校はオーケストラ奏者を養成する専門の学校みたいところで、他の人たちは1年生からプロオケのオーディションをばんばん受けていましたね。僕はほとんどオーケストラには関わったことがなかったのですが、指揮をどうやって見るのかもわかりませんでした。曲を暗譜したり何時間も聴いて覚えたりして、練習や本番のぞみました。

ボストン大学の大学院在学中にタンゲルウッド音楽祭に参加しました (2009年)。奨学生として費用を全額出してもらえ、祭りの高レベルの演奏が、レベルの高いプレイヤーが集まっている、自分たちは上手でなけ

ればいけない、選ばれたからにはちゃんとやらなければならないというような意識が高く、ピリツとした緊張感がありましたね。オーケストラのリハーサルの後、室内楽をやって、さらに打楽器アンサンブルというふうにタイトなスケジュールでした。音楽まみれの1



ミュージックアカデミーオブウェストの1コマ。右から2番目は元シカゴ響首席打楽器のテッド。

カ月でした。

このあとすぐにPMFに参加 (2010年) したのですが、PMFのほうがすごく管理されていたような気がします。バスに乗るときも点呼をとるとか、寝坊しているものがいたら起こしてくれるとか。練習や本番に遅刻してしまえば総スカンを食うのだからすべて自己責任、というのがアメリカの考えなので、少々甘やかし気味かなという印象はありました。

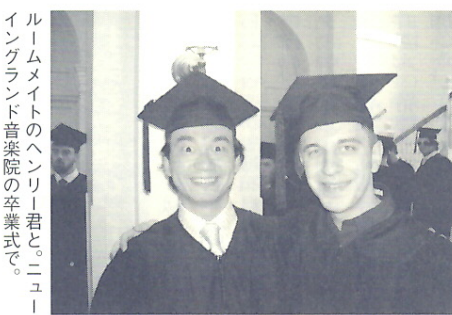
僕は音楽祭が大好きで、毎年どこかに行っていました。西海岸のサンタバーバラという所でやっている「ミュージックアカデミー! オブサウエスト」という音楽祭が一番印象深いですね。練習が終ったらビーチに行ってサーフィンをしたり、パトロンになって僕を応援してくれる方のお宅にお邪魔してご馳走になったり、何かそ

うい個人と個人の結びつきみたいなものがありました。

♪ 思ってもいなかった札響へ

札響の演奏を聞いたのはPMFの時がはじめてでした。美しい響きのオーケストラだと思いましたが、札響に入れたのは、「御縁があつて」というほかありません。オーケストラに入るのには本当に難しいんです。もちろん中には一発で受かる人もいますが、僕の場合は十二、三回オーディションを受けました。韓国まで受けに行ったり、ポルトガルにも行きました。

PMFに参加した年の11月にたまたま札響のオーディションがあつて、そこで選んでいただいたということなのですが、日本のオーケストラに入れるなんて思ってもいなかっただけで、本当によかったと思つています。しかも、その時点でもう家族がいたんです。妻はポ



ルームメイトのヘンリー君と。ニューヨークランド音楽院の卒業式で。

打楽器の中では、大太鼓が一番好きですね。もう、気持ちいいです。純粋に音色が好きなんです。なかなかいい音というか、自分の描いている音が出ないんです。左手でちょっとミュートしたりいろいろするんですが、その位置が微妙にずれているだけで音はちよつと違ふし、たたく位置、たたき方、スティックの選び方はもちろん、その日の湿度、会場によつても大きく左右されてしまいます。単純なだけに難しい。

突出するような音ではなくて、大きくてもオーケストラに溶け込んでいく、やわらかくて、ふくよかな低音が出せたらと思つていますが、オーケストラ全体を包み込むような音がやっぱり理想でした。

♪ 大太鼓は気持ちがいい

2015年から副首席になりましたが、副首席というポジションをやつて、そのほかの時は打楽器パートのトップをやるといふことになっていきます。私としては色々な楽器を演奏する今のポジションが自分に合っているのかなと思つています。打楽器の中でも楽器によつていろいろ役割が違うので苦勞もしますが、その違いを楽しんで演奏したいと思つています。

大太鼓は演奏しやすいいホールです。いろんな楽器の音がちゃんと織細に聞こえてきます。いつも練習場にしている芸森だとわんわん響き過ぎたりするんですが、弦の音とかもちゃんとしたバランスで素直に聞こえてくる感じがです。このホールにもひけをとらない素晴らしいホールだと思います。

「札響からぶサロン」のことは先ほどはじめて知りましたが、僕もいろいろやってみたいと思つているので、こういう機会をいただければうれしく思います。めちゃくちゃやるささい「ミニコンサート」になると思いますが、ピアノ伴奏があるといいですね。

我々打楽器奏者は舞台の上でいろいろなことをやっています。音のことはもちろん真剣に考えていますが、お客さんからどう見えるかということにも気を配っています。打楽器の演奏は見て楽しむという要素もありますからね。時にはスライドホイッスルを吹いたり、ウエストサイドストーリーではボリスホイッスルでピーッとするのもあります。サッカーの審判

のように素晴らしいと思つています。アメリカではすべての楽器において日本よりアタックが強く発音がはっきりしている音色でした。大太鼓もそれに合わせた音作りでしたが、札響では皆に溶け込むような音色作りを心がけています。今も苦勞していますが、当初はこの音色の違いにとても苦勞しました。

大太鼓は演奏しやすいいホールです。いろんな楽器の音がちゃんと織細に聞こえてきます。いつも練習場にしている芸森だとわんわん響き過ぎたりするんですが、弦の音とかもちゃんとしたバランスで素直に聞こえてくる感じがです。このホールにもひけをとらない素晴らしいホールだと思います。

「札響からぶサロン」のことは先ほどはじめて知りましたが、僕もいろいろやってみたいと思つているので、こういう機会をいただければうれしく思います。めちゃくちゃやるささい「ミニコンサート」になると思いますが、ピアノ伴奏があるといいですね。

我々打楽器奏者は舞台の上でいろいろなことをやっています。音のことはもちろん真剣に考えていますが、お客さんからどう見えるかということにも気を配っています。打楽器の演奏は見て楽しむという要素もありますからね。時にはスライドホイッスルを吹いたり、ウエストサイドストーリーではボリスホイッスルでピーッとするのもあります。サッカーの審判

が吹いているの。高関健さんがマイホイッスルを持ってきていて、これいいやつですから使って下さいって渡されるんです。マーラーの交響曲では大きなハンマーを振り下ろしたり。現代曲などではごい指示があつて、風船をなでたり、瓦を割ったり…。とにかく「え、こんなのも楽器になるの?」というような楽器もよく演奏しています。

「札響からぶサロン」のことは先ほどはじめて知りましたが、僕もいろいろやってみたいと思つているので、こういう機会をいただければうれしく思います。めちゃくちゃやるささい「ミニコンサート」になると思いますが、ピアノ伴奏があるといいですね。

我々打楽器奏者は舞台の上でいろいろなことをやっています。音のことはもちろん真剣に考えていますが、お客さんからどう見えるかということにも気を配っています。打楽器の演奏は見て楽しむという要素もありますからね。時にはスライドホイッスルを吹いたり、ウエストサイドストーリーではボリスホイッスルでピーッとのもあります。サッカーの審判

が吹いているの。高関健さんがマイホイッスルを持ってきていて、これいいやつですから使って下さいって渡されるんです。マーラーの交響曲では大きなハンマーを振り下ろしたり。現代曲などではごい指示があつて、風船をなでたり、瓦を割ったり…。とにかく「え、こんなのも楽器になるの?」というような楽器もよく演奏しています。



3歳の時のご長男と保育園で

ですね。5歳と3歳です。休んでいる方が子守をするということになって、夕御飯も作ったりしています。子供ってとてもかわいいですよ。2人とも稼働している時は、知り合いの人に頼んだり、ベビーシッターを雇ったり、キタラの託児所に預けたりしています。

♪ 打楽器の面白さに注目!

2016年1月22日

インタビューと編集／西川・上野・井上・村山・中居

第12回礼響くらぶサロン 打楽器奏者の大垣内さん登場 打楽器、最高!

TAKETSU MEMORIAL SALON 第12回礼響くらぶサロンが1月24日(日)にあげほのアート&コミュニティセンター中ホールで開催されました。過去最多46名、礼響専務理事の永井さん、竹津さんの奥様にもご参加いただきました。

第1部は新年リクエスト大会。皆様からいただいた礼響定期演奏会のリクエストよりお届けし、過去の名演奏とその曲にまつわる想い出話もたくさん聴く事ができました。村岡さんリクエストのラフマニノフ「ピアノ協奏曲第3番」から第3楽章、松岡さんのブラームス「ハイドンの主題による変奏曲」全曲、岩月さんのシベリウス「交響曲第4番」から第3楽章の3曲、どれも礼響定期のまぎれもない名演奏でした。



ミニコンサートでの大垣内英伸さん(マリンバ演奏)



盛り上がったミュージカル「エニシシ」グゴーズより」の様子

1番より「フーガ」、G. マークス「オールドアプリー」、コール・ポーターミュージカル「エニシシグゴーズより」コンサート形式(語り付き)、そしてアンコールのコール・ポーター「ユードビーンソーナリストウカムホームトウ」でした。小太鼓の楽器説明のお話や演奏技術の実演もありました。パッハのマリンバやジャズのヴィブラフォン、ゲロッケンまで出てきてまさに「オオガイトワンダフルワールド!」最後のミュージカルは上野愛さんによるナレーションと物語の中に出てくる登場人物の似顔絵イラストカードなどもあり大変分かりやすく価値ある世界初演?を体験しました。今回はお酒を飲みながら演奏が聴けてとっても楽しいコンサートでした。打楽器、最高!(個人的な意見ですみません)

第2部はニューイヤーマニコンサート。前日の礼響定期のシンバールをサロン当日はマレットに持ち替えて、礼響打楽器奏者の大垣内英伸さんに登場いただきました。演奏曲目はこちらの7曲になりました。朝吹 英「火華」、ミーチャム「アメリカンバトロール」(小太鼓付き)、C.O.マッサー「マリンバの為のエチュード」、J.S.バッハ「無伴奏ヴァイオリンソナタ第8」

第3部は新年交流パーティー。上田会長の乾杯の挨拶を皮切りに和気あいあいと宴は盛り上がりました。大垣内さんには各テーブルを回っていただき、参加した会員からの矢継ぎ早に出てくる質問にも答えていただき感謝いたします。次回、第13回のサロンは3月20日です。皆さん、上田会長が言っていたようにお友達を一人誘って来て感動を分かち合いましょ!! (サロン担当 上野文博)

第13回礼響くらぶサロン サロン物語は猿渡さんの「愛の挨拶」からはじまった!

第13回礼響くらぶサロン(TAKETSU MEMORIAL)が、札幌市教育文化会館401号室で開催され49名の方々が参加しました。

第1部は、礼響定期2016年前期シーズンの聴きどころで、解説は礼響くらぶサロンナビゲーター八木幸三さんです。礼響は2016前半に後期ロマン派以降の近代音楽や現代音楽と言った意欲的なプログラムを組んでいます。4月にはキタエンコ氏指揮で、プロコフィエフ「交響曲第1番二長調古典」を取り上げ、5月にはドビュッシーの世界的権威マエストロポノンマー氏指揮で「牧神の午後(後の前奏曲)」が、そして6月、広上淳一氏指揮でシベリウス「ヴァイオリン協奏曲」短調「シヨスタコーヴィチ」交響曲第8番八短調を取り上げ、後期ロマン派からどのように近代・現代につづく作曲者の過程があったのか? 礼響アーカイブを通して解説されました。特にシベリウスヴァイオリン協奏曲「短調」について、1970年第94回定期演奏会からシヴァルト氏指揮で江藤俊哉さんの演奏を取り上げ、その迫力に圧倒される思いでした。2016定期演奏会は本当に楽しになりました。



第1部での八木幸三さんのアカデミックなプレトーク

第2部は、サロン物語は猿渡さんの「愛の挨拶」から始まりました。息もつかせず、パッハ「無伴奏チェロ組曲第一番」全曲演奏でした。こんな場面はめったにないこととで、サロン企画ならではの実現です。そしてメシアン「イエスの永遠性への賛歌」、「フアリヤ」スベイン民謡組曲「これも全曲です。アンコールは、宮川彬良氏作曲の「風のオリヴァストロ」...オリブの木に風の吹くたび想い出す人がいる...とチェロのセピア色の音色に乗ってささやいてきます。良質な静寂と豊かなコンサートも久しぶりでした。チェロの音色と共に中谷友美さんのピアノが素晴らしい。その中でも、猿渡さんのトークによると、現代音楽を引っ張っているメシアンの新約聖書「ヨハネの黙示録」



第2部での猿渡輔さん(チェロ)と中谷友美さん(ピアノ)

から印象を受け、「世の終わりのための四重奏曲」から第5楽章「イエスの永遠性への賛歌」作曲されたのは収容所の中、初演ももちろん収容所という、劇的な逸話のある作品でチェロとピアノの独特な旋律は心に沁みる演奏でした。

第3部は、礼響くらぶ上田会長の発声で始まり、猿渡さんと中谷さんを囲んでワインとビールをいただく交流パーティーです。今回は、礼響くらぶも加盟している、「アートボランティアをツアースする」という17団体加盟の「さっぽろアートボランティア・ネットワーク」(代表西川吉武)からも参加され、参加者全員幸せなサロンを満喫されたようです。次回第14回礼響くらぶサロンは、6月4日(土) 17:30から札幌市教育文化会館401号室で開催されます。ご案内は会報74号で、ゲストをお楽しみにしてください。(礼響くらぶ 西川吉武)

大平まゆみ著

「100歳まで弾くからねー」を読んで

著者は、皆さんよくご存知の札幌のコンサートマスター(以下、「コンマス」と略す)です。仙台市でお生まれになり、4歳からヴァイオリンを始められました。東京芸術大学在学中、サンフランシスコ音楽院へ招待留学され、その翌年には、タンゲルウッド音楽祭オーケストラのコンマスに抜擢されて最優秀ヴァイオリニストに与えられる「シルバースター賞」を受賞しておられます。同院卒業後スタンフォード弦楽四重奏団などを経て、米国・シラキユース交響楽団を振り出しにカナダ・バンクーバー交響楽団、帰国後、東京交響楽団などのゲストコンサートマスターなどとして活躍のあと、平成10年4月に札幌のコンマスに就任されましたが、本書に記された時折々の演奏活動にまつわるお話しは感動の連続です。読書家で



あり努力家であることが表現を豊かにしていると感じました。卓越した演奏技術に裏打ちされ、何事にも挑戦しようという気力と、包容力と人望を生まれながらにして持ち合わせておられる非凡なヴァイオリニストに違いありません。本書の中からぜひ紹介したいこととして、コンマス就任後しばらくして札幌を襲った経営危機の際には、経営立て直しのための協賛企業の募集に、コンマスも札幌があつてのこととの強い意識のもと、先頭に立ち奔走されたことを特筆したいと思います。

また、コンマスの立場からの指揮者評は大変興味深く読ませていただきました。尾高忠明さんは、いつも音楽に厳しい指揮者で、ご自分の信じる「音」をとことん追求される、エリシユカさんは、暖かいお

人柄で、札幌を愛してくださっている気持ち伝わってくるので、札幌の音が「エリシユカ・サウンド」になるから不思議などと記されています。

本書には、大平さんのご家族との写真の初公開に加えて、札幌定期演奏会をはじめ、リサイタルなど年間約250回の多彩な演奏ステージの写真が収録されており、そこから音楽が聞こえてくる、見飽きることもないものになっています。と同時にこのような精力的なコンマスの演奏活動が札幌ファンを増やし、札幌を支えているに違いないと思いました。

『40歳代最後の冬、娘たちと沖繩へ行った。私は海を見ながら何気なく、「100歳までヴァイオリンを弾くからねー」と宣言した。「すごい!そうしたら今の2倍上手になれるね!」と娘たち。その言葉に励まされて、いまの私がある。そして、それからずっと階段を上り続けている。』と本書の巻頭(プレリユード)に記されています。北海道の大自然と札幌をこよなく愛する大平さんのますますの御健勝を祈り声援を送りたい。

札幌ファンの皆様、札幌をより深く聴くためにも、コンマス直筆の本著をぜひ一読されることをお勧めします。北海道新聞社、平成26年1月初版発行、223頁、定価1944円(税込み)

川端晋太郎(札幌くらぶ会員)

ブラブオー! 札幌&エリシユカ

久しぶりにサントリーホールへ行ってまいりました。去年の札幌以来一年振り。当日券の列には20人ほど、完売間近の様子、残席を選ぶのは至難の技か列はなかなか進まず、開演時間に間に合うかとハラハラ10分前には何とかチケットを得、しかも一列目のど真ん中。期待を胸に入ると、ホワイエは人で一杯。札幌&エリシユカ人気が伺えました。

一曲目はスメタナの「シヤールカ」。「我が祖国」より。華々しい始まりと、伝説を音にしたといわれる物語に満ちたワクワク感溢れる音楽でした。プログラムによると男性に裏切られた憎悪に燃える女傑が軍団を率いて復讐する、という恐ろしいものですが、音楽に恨みや怖さはなく(エリシユカさんやスメタナが男性だからでしょうか?)英雄の冒険譚のようでした。オケの音もハツとするダイナミックさ。一列目は初、こんな音の札幌は聴いたことがなく、御年85歳が率いているとはとても信じられませぬ。

飛び交うブラアヴォの後は2曲目、ドヴォルザークの「弦楽セレナード」でした。弦楽セレナードという、チャイコフスキものが一般的、しかも厄介なことにあ

まりにも酷似しており、部分部分についてチャイコが浮かび難儀しました。でも、オケはとても澄んだ見事に束ねられた音に、温かい情感も練り込まれ、弦楽だけで作る音の良さや贅沢さを感じました。

ドヴォルザークの故郷チエコはエリシユカさんのお国でもあり、チエコの想いが丁寧な音運びにも詰まっているように思いました。こちらでも大喝采。当然でしょう!そして休憩をはさみ、チャイコフスキの4番です。「一列目かぶり付き席」も現場の緊張感が伝わり良かったのですが、やはり慣れた席が落ち着くと、2階後方に替わりました。

最初のファンファーレ部分からおおと驚く大音量。オケ全体どの音もクリアで雑味や無駄がなく、洗練されています。これがエリシユカさんと札幌なのかと感激しました。本当に、どの部分も見事に調和し、しかもとても丁寧でした。この曲はオールピチカート

の3楽章を好きな方が多いようですが、まるでサツカーやラグビー観戦のウエーブのように、コントラバスからヴァイオリンに渡り来る様子には、クリアな音のウエーブが、はつきり目でも見えるよう

な錯覚を覚えました。キラキラ光るシンバルの音で始まる最終楽章は、押さえつけてくる絶望とそれを押し戻す前向き感のせめぎ合いですが、チャイコの音と言葉に私も前向きになれるかなという気持ち

が沸きました。 終った途端、千客万来拍手喝采、ブラアヴォの嵐。もう、札幌サイコー! エリシユカさんサイコー! じゃん(横浜弁!)と思いました。 アンコールはドヴォルザークの

スラヴ舞曲。聴きなれた曲のはずなのに、なぜか今日はナチスに壊された廃墟の瓦礫を拾い、復興しようとしている人々の景が浮かびました。やはり丁寧な音運びに、ドヴォルザークやエリシユカさんのチエコはどんな国なのかと興味津津になりました。あとから考えると、アンコールは、三・一一が近く、その追悼や復興へのエールを贈られたのか!と。ガツンとやられた気がしました。

今回、耳の肥えたレアもの好きな知人も数人来ているのがわかり、札幌&エリシユカさんの良さはツウも唸らすと、札幌くらぶ会員としてとても誇らしく感じました。 帰りは出口で毎回恒例のホクレンからのお楽しみ、今回ははるん糖100グラムをいただけ、心身ともに有り難くサントリーホールを後にしました。

(横浜 辻ユキコ)

随想 本棚の隅から 15

偶然に見つけたプログラムに出がよみがえる。

江藤俊哉；音楽監督

フェスティバル・アンサンブル

(協奏曲のタペ)

1981・5・18(月)

北海道厚生年金会館

プログラム

J・Sバツハ

二つのヴァイオリンのための

協奏曲 二短調 BWV1043

モーツァルト

ヴァイオリン協奏曲 第4番

二長調 K218

ヴィヴァルディ

2つのヴァイオリンのための

協奏曲 二短調

モーツァルト

ヴァイオリンとヴィオラのため

の協奏交響曲 変ホ長調 K364

独奏・アイザック・スターン

・江藤俊哉

1981年第4回東京音楽芸術祭を機会に江藤俊哉氏の熱意でアンサンブルを作ろうと結成されたのがこのアンサンブルで出演者の見事なこと、これは聴きに行かねば……いや、私の場合は観に行かねば……江藤俊哉・アイザック・スターンこの二人だけでも価値があるのに札幌の演奏会ではN響と

札幌の楽員が多数出演している。

コンサートマスター 徳永二男

1st V1 江藤アンジェラ

・堀米ゆず子・水谷正志

・毛利友美・千住真理子

2nd V1 堀 伝・大下茂樹

・山下浩司・吉井真琴

Va 江戸純子・古沢巖

・奥邦夫・大久保淑人

Vc 岩崎沈・小野崎純・上田英順

Cb 林雄一・中博昭

Ob 岩崎弘昌・小島葉子

Hrn 千葉馨・窪田克己

Cemb 本庄玲子

当時の札幌の楽員が7名参加している。(注・傍線付き)

現在も札幌で活躍しているのはオーボエの岩崎さんだけになってしまった。全員の顔写真が載っている、千住真理子と古沢巖はまだ学生で子供っぽい顔をしている。

プログラムの解説から抜粋

見のがせない演奏の黎明

『今までわが国でこれだけのアンサンブル・グループが編成されたことはなかった。東京、名古屋、札幌の三か所の公演だけであるがこれこそ少なくともテレビやFMを通してでも、日本の聴ける限りのところに送りたい演奏会である。』バロックと古典との音楽の真の味が

満喫されることであろう。それだけにあたらしく結成された披露演奏会としてのフェスティバル・アンサンブルは聴きのがせないとと思うし、日本人がいかに優秀な演奏をするのかのバロメーターともなるであろう。『大変豪華なメンバーで編成されている。どんな音響きが生まれるだろうか楽しく想像をひろげてしまふ。多くはアンサンブル巧者ではあるが、例えば古沢巖・千住真理子のような若い奏者は、先輩たちに囲まれて得るところも多に違いない』などと、かなりの期待と賛辞にあふれている。

この後、このアンサンブルがどうなったのか私は知らない。ともかくアンサンブルの楽しさを広めたことは確かだと思ふ。

オーケストラとリサイタルにしか興味がなかった私がアンサンブルに参加しました。

花束贈呈

オーボエ首席奏者 金子亜未さん

キタラ楽屋にて

短い間でしたが、初めてのオケで学ぶことがたくさんあってすごく勉強になりました。これを生かして次に行きたいと思えます。札幌にもぜひ来ます！

ルを自ら聴きに行つたのはこの時が初めてだった。肝心の音楽の内容など全く思い出せない。

ただ、あのアイザック・スターンと江藤俊哉のアイ・ユニタクトと絶妙な二重奏が強く印象に残っている。

そして、どんな音源でも捉えることが出来ない、あの千葉馨のホルンの余韻をもう二度と絶対に聴くことが出来ないのはせつない。

人は逝き、ときは過ぎて……!!

(井上明子)

スタッフの活動報告(平成28年1月~3月)

◆札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業実施

1月23日(土)第585回札幌定期演奏会において、清田、平岡緑、中學校計100名を招待しました。

◆第12回札幌くらぶサロン開催

1月24日(日)午後5時00分からあけぼのアート&コミュニティセンター中ホールにおいて第12回札幌くらぶサロンの開催、約46人が参加しました。

◆会報「札幌くらぶ」第73号発行

1月27日(水)会報「札幌くらぶ」第73号800部を発行し、約600部を会員、楽員、報道関係に発送しました。

◆第10回札幌くらぶ運営会議開催

1月27日(水)午後6時00分から札幌コンサートホール2階大会議室において、第10回札幌くらぶ運営会議をスタッフ11名が参加して開催し、会報「札幌くらぶ」第73号、74号編集企画ほか4件について協議しました。

◆札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業実施

2月20日(土)第586回札幌定期演奏会において、新陵、八条各中学校計48名を招待しました。

◆第11回札幌くらぶ運営会議開催

2月25日(木)午後6時00分から札幌コンサートホール1階第1会議室において、第11回札幌くらぶ運営会議をスタッフ17名が参加して開催、平成28年度総会の開催ほか4件について協議しました。

◆札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業実施

3月5日(土)第587回札幌定期演奏会において、宮の森、手稲、伏見各中学校計102名を招待しました。

◆第12回札幌くらぶ運営会議開催

3月23日(水)午後6時00分からエルプラザ2階18人用会議コーナーにおいて、第12回札幌くらぶ運営会議をスタッフ16名が参加して開催、平成28年度総会議案ほか5件について協議しました。

(事務局長 武藤義典)

編集後記

◆高校入試も終わり、春の近づきを感じます。寒暖が激しいせいか、演奏会でも咳をされる人が増えたように思います。自戒も含め、ハンカチなどを用意して音を和らげたいものです。(これからは花粉かな?)(神)

◆失恋の失意から作曲されたという「アルト・ラプンディ」(アラームス)。こんな素敵な作品が生まれるのなら、芸術家には大いに恋をしてもらいたいものである。札幌でも採りあげてくれないかな。(村岡)

◆年々一年が短くなる、ある人の説によると、自分の年齢の分だけ日数が少なくなるそうだが、でも、百歳になつたって、一年はまだ二百六十五日もあるから安心して長生き出来る、但し、老害にだけはならないで居ようと思う。(護)

◆札幌の東京公演に行けなかったのが残念でなりません。待望のエリシユカさんの指揮だったのに。そんな時、横浜在住の会員辻さんから感想が届き、感激でした。来年は絶対東京に行きます。(み)